

7月5日のレッスン

## 信仰深い百人隊長

鍵となる聖句：「イエスはこれを聞かれて、驚いて、従っていた人々に言われた。『まことに、あなたがたに言います。イスラエルの中でも、これほど大きな信仰を見たことはありません。』」  
マタイによる福音書 8章10節

選読箇所：  
マタイによる福音書 8章5-13節

キリストの地上の宣教期間中、ガリラヤのカペナウムで多くの奇跡を行われましたが、その中には百人隊長の僕を癒やされたことも含まれています。この記述には、その僕が善良な者であったという明記はありませんが、百人隊長が規律正しい人物であったと推測するのは妥当でしょう。そのような人物は通常、従順な僕を求めて、それを手に入れるものです。さらに、主との対話の中で、彼は自分のしもべたちが自分の指示通りに動くことに慣れていると述べた。異邦人でありながら、百人隊長はイエスにただ一言おっしゃるだけでよいと提案した。彼は、主には強力な力があり、癒すためにわざわざそのしもべのもとを訪れて触れる必要はないと信じていたのである。マタイによる福音書 8:5-9

今日の聖句は、イエスがローマの百人隊長の信仰に感嘆されたことを示しています。一方、

ユダヤ人たちは、イエスが彼らに長く約束されていたメシアであるという真理を信じることができませんでした。「あなたがたに言うておく。東から西から多くの人々が来て、天の御国でアブラハム、イサク、ヤコブと共に食卓を囲むことになる。しかし、御国の子供たちは外の暗闇に放り出される。そこで、泣き叫び、歯ぎしりするであろう。イエスは百人隊長に言われた。『帰りなさい。あなたが信じたとおりに、あなたに成し遂げられるように。』すると、そのしもべはその時すぐに癒やされた。」マタイによる福音書 8:11-13

これらの言葉には、イエスの力には限りがないという教訓が込められている。さらに、私たちへのイエスの祝福は、信仰によってそれを受け入れる私たちの準備の度合いに比例する。なぜなら、「信仰がなければ」、神に喜ばれることは不可能だからである。（ヘブル人への手紙11:6）。したがって、信仰を行使できない者は、天からの召しのもとで与えられる祝福にあずかることはできず、神の栄光ある御国が地上に築かれる時を待たなければならぬ。マタイによる福音書6:10

天の御国のクラスの核心は、ペンテコステの日から3年半の間、すなわちコルネリウスが最初の異邦人改宗者として受け入れられる時まで、ユダヤ人によって構成されていました。それ以来、以前は異邦人が神の恵みを十分に受けることを妨げていた、ユダヤ人と異邦人の間の「隔ての壁」は取り除かれました。（エペソ人への手紙 2:14）。その時から現在に至るまで、主はすべての国々から弟子たちを「招き」、集めてこられました。

ユダヤ人の中の信仰ある者たちは天の御国に与るものの、その民族全体としては拒絶され、世の「暗闇」の中に投げ込まれました。彼らは二千年近くもの間、「泣き叫び、歯ぎしりする」状態にあります。しかし聖書によれば、やがて神が恵みをもって彼らの罪を赦し、民族的な盲目から救い出す時が来るのです。（エレミヤ31:31-34）。彼らは、メシアの王国において、地上のすべての氏族と共に祝福されるであろう。創世記12:3; 28:14

神に奉獻された聖徒たちは、この驚くべき備えをどれほど喜ぶべきでしょうか。救いの申し出を受け入れ、永遠の平和と義を確立するという天の父の壮大な計画に従順に従うすべての人々は、地上で完全かつ永遠の命を得るでしょう。黙示録21:1-5